

Title	静脩 Vol. 2 No. 1 (1965.5) [全文]
Author(s)	
Citation	静脩 (1965), 2(1)
Issue Date	1965-05
URL	http://hdl.handle.net/2433/65907
Right	
Type	Others
Textversion	publisher



The Kyoto University Library Bulletin

静脩

1965年 5月

Vol. 2, No. 1

他山の石

小堀 憲

イギリスのケンブリッジへ行ったとき、トリニティ・カレッジを訪ねたが、いまでも、はっきりと印象づけられているのは、ここの図書館のすばらしさである。このカレッジの名誉を高めた学者の書いたものが、ぎっしりとならんでいるのは、実に、壮観の一語で尽きるといった。ことに、ニュートンの物を集めたコーナには、この大科学者の原稿、論文、著書が、その書齋を思わせるようなふうに、集めてあって、図書館に来たというよりも、ニュートンの研究室へ来たような感を受けた。プリンキアの1686年版のページをくっていると、ニュートン自身が赤インクで加筆しているのが、しばらく時の経つのを忘れて、読みふけたが、このような資料を、ふんだんに持っているイギリスの科学史家を羨しく思うとともに、立派な研究が出てくるのは、もっともなことだと思ったが、このように、この大学の名誉を高めた人達の研究業績を集めて、完全な状態で保存しているのをみて、「かけだし」の大学は、とてもかなわないと思った。

パリの地下鉄の駅バレ・ロワイヤルから、リシュリウ街を北へ進むと、右側に、宮殿のような建物がある。それがビブリオテク・ナショナルであり、貴重な文献が、完全に保存されているところである。書物やマヌスクリプトのコレクションもさることながら、そのリストの完備していることも、すばらしいものだった。アルス・マグナの1545年版のフィルムをとることができたことはうれしかったが、ただ集めるだけではなく、保存することに万全を期していることが、よく現われていて、羨しく思った。というのは、「保存」の点については、日本は弱いからである。

貴重な和算書が「しみ」の暴威に屈している現状をみるたびに、心が痛む。このように「しみ」を思うままにふるまわせていることを、後世の研究者は「あいつらは何をしていたのであろう」と非難することだろうと、気が気でない。

この点では、特にアメリカはすばらしい。プリンストン大学の中央図書館を訪ねたとき、日本やシナの書物がならんでいる部屋を見たが、漢籍のコレクションでは、本学の人文科学研究所のものからみたら劣っているようである。しかし、温度と湿度とが調節されているので、「しみ」が発生しない。防虫剤といった不完全な「まにあわせ」でないから、すべての資料が、安全な状態で、保存されている。「予算がない」といって、放置している日本とくらべると、雲泥の相違であるが、文化の伝統に貢献しなければならない大学の図書館は、それでよいのだろうか。欧米においては、「文献は生きている」のに、わが国では、日本文化を伝える文献は、日1日と、「亡んでいる」のである。（理学部教授）

1) 情報図書館課の昇格

文部省大学々術局学術情報主任官室は大学図書館等の多年の要望もあって、このたび情報図書館課に昇格し、説田主任官が課長に就任、学術に関する資料の収集、大学図書館に対する学術の振興のために援助と助言を行うことになった。(昭和40年4月1日付)

2) 図書館視察員制度の設置

文部省では今回図書館視察員の制度を設け、国立大学関係から10名、その他から10名計20名の視察員を委嘱することになった。この制度は大学図書館の運営について適切な助言をあたえることが主な目的である。

3) 旧帝大図書館に部課制実施さる

東大、京大を除く他の旧帝大図書館、北大、東北大、名大、阪大、九州大にも部課制がしかれ、それにともなって各大学図書館においては人事異動がおこなわれた。

4) 人文科学研究所が東洋学文献センターに

文部省ではこのたび東洋学文献センターを設置することとなり、関西地区においては本学の人文科学研究所が指定せられ、来る7月頃に開設の予定である

5) 大学図書館職員講習会

本年度大学図書館職員講習会は10月に岩手大、東京地区、岡山大学で開催される予定である。

附属図書館に「セドリック」

—機動力を期待—

附属図書館ではこのほど「セドリック・ステーションワゴン」を1台購入し、各学部、研究所の図書及び、複写文献の集配をはじめた。これまで図書の集配は業者に委託して週1回行なっていたが、現在は週2回行なっている。したがって、整理された図書はいままでより早く返却され、利用に供されることになった。また、複写を依頼してくる文献の大半は各学部、研究所に所蔵されているため、従来は収集に費す時間的ロスや、運搬の量的制約が業務を迅速に処理する上で一つの隘路となっていたが、



この問題も解決されることになった。

附属図書館ではこの「セドリック」の機動性が今後対外サービスや複写業務のスピードアップに大きく寄与するものと期待されている。

図 書 室 と 私

黄 敏 展

私が京都大学農学部初めて研修員として来てから、もう3年半余りになる。この間に修士課程を修了して博士課程に入った。この短くない間、今考えてみると、農学部の図書室には大変御厄介になっていた。一番図書室が必要になるのは、自分の専門に関する文献を探す時である。特にゼミナールの時はかならず図書室に頭を突込む。私の見たい文献には時々戦前の古いものがある。このような古臭い文献だと一般の書架にはなく、書庫の奥深く置かれているが、係員はいつも心よく、すぐ探しに行ってくれる。時には30分以上も書庫で探してくれる。そしてやっと目的の本を持って出て来た時は、本当に感謝の気持ちで一ぱいであつた。係員はこの3年半の間に3人、4人と変ったが、この親切な態度はどの係員も変らなかつた。大変よいことで、私達学生は非常に助かっている。

本部の附属図書館より離れている私達農学部の学生は、図書室がやはり唯一の共同読書の場所であり、いこいの場所でもある。学部の一・四回生だけでなく、大学院生や研究生にとって、図書室は忙がしい研究や実験から一時的に逃避するところでもある。ここには新聞、一般雑誌や週刊誌あるいは自分の専門外の専門誌が置かれている。いつ行ってもなにか手に取って読みたい本がある。以前私が来た当時は、なんとなく落着いて図書室で本を読む気にはならなかったが、去年の夏、全面的に図書が自由に見られるような配置がえがなされて、よりよい読書の場所になり、気軽に利用するようになった。本も、専門外のものを書架より自由に取り出してページをめくるようになった。特に入口の右側にある雑誌に囲まれた円卓は、逃避の場所として一番よいと思う。このように図書室は、年々私達学生によりよく利用されやすいよう改善されて来た。私として欲をいえば、一般的な雑誌や週刊誌の種類を増すことができ、壁を白く塗り替えて、より明るい部屋にすることができたらと思っている。

(農学部大学院学生)

今 城 扶 美

私が本にとりつかれたのは中学校時代であつた。3年間を過ごした広大附属中の図書室は開架式であり、中学校にしては蔵書も多かった。教室から近くて気軽に行け自習時間によく利用した。自由に本を手にとり、2・3ページ読んだり、写真や図だけ拾って見たりした。特に私の興味をひいたのは小説、特に外国小説、探偵小説、空想科学小説と自然科学系統の本であつた。何でも手当たり次第、無我夢中で読んだ。もう一つの大きい魅力は、新聞、雑誌が豊富に用意されていることであつた。放課後、あるいは自習の時、雑談しながら次々と読みあさつた。

全然深く考えずただ筋ばかり追う興味本位のものではあつたが、私はそれが、全く無駄であつたとは思わない。中学生の私にとって本は最大の喜びであり、図書館はいこいの場で親しみやすい場であつた。

高校生となつてからは、乱読より熟読になり読む本も減少した。しかし、大手前高校へ転入するやいなや、急に図書館から遠ざかってしまった。それはただ単にその形式が閉架式であつたからである。慣れないために本を貸りるのがおっくうになり、2、3冊読んだきりやめてしまった。

この体験から図書館の形式は重要だと思ふ。現在の教養部の図書室も私にとっては何となく行きにくいものだ。

だからできれば開架式にしてほしい。本の間を歩きまわり、どんな本があるかを知り、どれを読むか迷い、手にとって友達の意見を聞くのはどんなに楽しいだろう。

また私は図書館を、自習の部屋にするのは、間違いだと思う。別に自習室のような独立した部屋があるべきだ。図書室は、少しくらいなら話のできる新聞や雑誌、週刊誌なども気軽に読める、親しみやすいいこいの場であつてほしいと思うのは中学生的思考方であろうか。(農学部・一回生)

ダンテ 図 書 展

— 一生誕700年記念 —

と き 6月14日—17日

ところ 附属図書館陳列室

アメリカ大学出版部協会の寄託図書館として指定される

このたび、アメリカの大学出版部協会の日本における「寄託図書館」(Depository Library)として、本館が指定されることになり、同協会所属の各大学出版部から図書の寄託を受けることになった。これは世界中の学者や学生に、アメリカの大学出版部で発行された図書を、研究の資料としてひろく利用してもらうために、アメリカ大学出版部協会が企画したものである。

その第一陣として、同協会所属のプリンストン大学出版部より下記の図書を受取ったが、プリンストン大学につづいて、近くテキサス大学出版部からも本館で選択した図書が寄託されることになっている。これらの寄託図書はいずれも、閲覧事務室のカウンターに展示しているので大いに利用していただきたい。

プリンストン大学出版部寄託図書リスト

- Ch'en, K. : Buddhism in China. 1964.
 Dorpalen, A. : Hindenburg and the Weimar Republic. 1964.
 Evert, W. H. : Aesthetic and myth in the poetry of Keats. 1965.
 Gilbert, F. : Machiavelli and Guicciardini : Politics and history in 16th-century Florence. 1965.
 Hammond, T. T., ed. : Soviet foreign relations and world communism. 1965.
 Harbison, E. H. : Christianity and history. 1964.
 Hindle, B. : David Rittenhouse. 1964.
 Jansen, M. B., ed. : Changing Japanese attitudes toward modernization. 1965.
 Kahn, C. H. : Business and professional income under the personal income tax. 1964.
 Kirsch, A. C. : Dryden's heroic drama. 1965.
 Link, A. S. : Wilson : Confusions and crises, 1915-1916. 1964.
 Liu, Ta-Chung & Yeh, Kung-Chia : The economy of the Chinese Mainland : National income and economic development, 1933-1959. 1965.
 Loofbourow, J. : Thackeray and the form of fiction. 1964.
 McPherson, J. M. : The struggle for equality : Abolitionists and the negro in the Civil War and reconstruction. 1964.
 Martin, J. R. : The farnese gallery. 1965.
 Palmer, R. R. : The age of the democratic revolution : A political history of Europe and America, 1760-1800. V. 2 : The struggle. 1964.
 The role of direct and indirect taxes in the federal revenue system. A conference report of the National Bureau of Economic Research and Brookings Institution. 1964.
 Phillips, A., ed. : Perspectives on antitrust policy. 1965.
 Repts, J. W. : The making of urban America : A history of city planning in the United States. 1965.
 Rosenau, J. N., ed. : International aspects of civil strife. 1964.
 Sakurai, J. J. : Invariance principles and elementary particles. 1964.
 Smith, P. F. : Consumer credit costs 1949-59. 1964.
 Thornton, T. P. : The third world in Soviet perspective. 1964.
 White, J. A. : The diplomacy of the Russo-Japanese War. 1964.
 Whyburn, G. T. : Topological analysis ; revised edition. 1964.

経済学部 道下文庫について

経済学部では、学部学生の図書の利用が、いろいろな事情のために、必らずしも満足すべき状態になっていないことを、十分にわきまえており、その改善のために、関係者はたえず苦心を重ねている。

昨年春、当時学部2年生であった道下忠雄君が不幸にして死去されたとき、同君の父上である武司氏は、忠雄君の記念事業の資にもと、学部へ10万円を寄附された。学部はその尊い御意志をありがたく頂くことにして、使途について相談の結果、学部学生にたいする指定図書と同じく学生が自由に出し入れして読めるように、附属図書館内の特定のオープン・シェルフに陳列しておく図書類を購入して、それを道下文庫と名づけることになった。

図書の種類としては、経済学部学生として一般的に閲覧・研究すべき、経済学上の古典書類をはじめ、現代の経済学、社会思想などのスタンダード・ボックスをえらび、外国語のばあいには、原書のほかに、邦訳書もなるべく多く集めることにした。経済学部の学生はもとより、他学部の学生で経済学に関心を寄せる学生諸君が、この文庫をひろく、よく利用して、今は亡き学友、道下忠雄君の勉学の遺志をついでくれることを希望する。

(出口勇蔵記)

京都大学図書館改善特別委員会 (第5回)

京都大学図書館改善特別委員会(第5回)は4月13日午後3時から附属図書館において開催された。今回は主として各学部における雑誌の収集、管理利用の問題について討議された。各委員より学部における雑誌の寄贈、購入についての状況、欠本による製本の渋滞、個人寄贈の雑誌整理の問題などが出され活潑な意見が交されたが、特に寄贈、交換の場合の窓口の一本化、欠号図書の処理、ソ聯科学アカデミー発行の英訳版図書の購入、教授などの個人の所蔵にかかる図書の寄贈、地方議会の議事録の購入などのことが要望された。

京都大学附属図書館商議会 (4月27日午後3時 於 図書館会議室)

堀江議長より図書館所管事務について報告があったのち、協議事項である京都大学附属図書館規程施行細則の図書の貸出に関する条文の一部改訂、今般ゼロックス複写業務をはじめにあたり、文部大臣宛に料金表の承認申請する必要上、従来の京都大学附属図書館マイクロフィルム取扱内規を改めて、同文献複写規程を制定することになり、本館で作成した案について審議され、協議の結果、施行細則の一部改訂については一部修正のうえ、規程については原案通りそれぞれ承認された。

京都大学附属図書館規程施行細則改正点

第3条、第2項第2号

2 学生

大学院学生 1ヶ月以内

学部 学生 2週間以内

第3条第3項

ただし、第2項第2号の学生については春、夏、冬の各休業期間中に限り、右の期間によらず休業期間終了後1週間まで返却を猶予することができる

第4条第2号

2 学生

大学院学生 10冊以内

学部 学生 5冊以内

第8条 削除

京都大学附属図書館文献複写規程

第1条 京都大学附属図書館の行なう図書その他の文献の複写(以下「複写」という。)に関しては、この規定の定めるところによる。

第2条 複写は、京都大学附属図書館規程第12条により撮影の許可をうけた者のほか、学術研究上の目的を有するものについて大学、研究所、試験所等の学術機関およびこれらの機関に所属する者の依頼に応じて行なう。

第3条 複写を依頼しようとする者は、所定の申込書に必要事項を記入の上附属図書館長に申し込むものとする。

第4条 前条により複写の申込をなした者は、別表に定める複写料金を前納しなければならない。

(2) 一旦、納付された複写料金は、いかなる理由があっても返還しない。

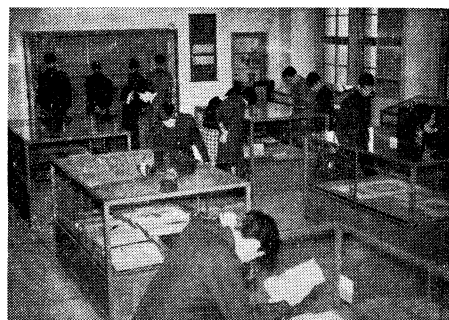
なお、旧京都大学附属図書館文献複写料金実費表に次の事項を加え別表とする。

ネガフィルム	ただし3コマ以下は3コマとして計算する	
電子写真複写	B4	30円

京都大学貴重書展

本年も新生の歓迎の意味をふくめて、去る4月12日より15日まで図書館において京都大学貴重書展が開催せられた。今回の展覧の特に従来と異なる点は出品はすべて各部局の所蔵であり、いわば全京大の展覧とでも称せられるものであった。この意味で展覧を通じて各部局の力強い命脈が感ぜられ、総合大学のスケールの大きさが示され新生をはじめ、学内外の来観者が多数あって、近来にない盛況裡に無事展覧を終了した。展覧品のおもなものは次の通りである。

文学部出品 誹諧連歌抄(山崎宗鑑自筆)のほか、故西田幾多郎、故三浦周行両教授の



原稿ノートから、戦国部将の消息、マリア十五玄義図その他。

法学部出品 主として法制史関係の資料が出品され、近世の刑罰史の参考資料として隠れ切支丹、手錠、その他。

教育学部出品 明治7年から11年にわたる小学校卒業証書、その他。

経済学部出品 往古の唯一のニュース機関であった瓦版等が出品された。

理学部出品 曲線模型、蛙の化石が出品されたが、特に、内田教授の苦心の制作にかか
る岩塩巨大単一結晶は注目された。

医学部出品 杉田玄白訳の解體新書はあまりにも著名である。

工学部出品 古建築の資料として関防院立様図、慎徳堂立様図が出品された。

人文科学研究所出品 中国宋時代刊本の附釈音春秋左伝疏、同監本附音春秋公羊註疏、
等の中国古刊本が出品された。

一館内めぐり

図 書 館 の 窓 口 閲覧貸付掛

閲覧貸付掛というのは銀行の窓口と同じで図書館の第一線である。最も主要な仕事はカウンターで利用者に適切な奉仕をするということである。本館には開架室と閲覧事務室とにカウンターがある。

開架室 ここには教官から推薦された指定書をはじめ、一般図書、教官文庫、法、経関係の雑誌のバックナンバー及び語学辞書等約1万冊、その他新着雑誌類1,000余種が排架されている。この部屋の利用者を39年度の統計でみると、実際に図書を利用した者は1日平均108名、165冊で、その2～2.5倍の人数が部屋を出入りしていると考えられる。係員はたえず出入りする利用者の応接に、又レファレンスに、そして返却図書の整理と書架への返戻排架のみで一日を終始しているのである。

閲覧事務室 書庫に納められている図書の利用申込みはここで受付けている。係員は記入された請求記号により書庫から図書を出すのであるが、実際は請求記号の書き違いや叢書名を書き忘れた不完全なものが多く、それ等に対しても商売柄の感を働かせ、カードを再調査するまでもなく目的の図書を探し出す特技を発揮したりなかなか苦勞の多い仕事である。貸出し手続きや図書の返却もこのカウンターで受付けているが、開架室の開設で少々楽になったとはいえるものの、常に書庫とカウンターの間の往復を繰返し席にもどれば図書の返却者が待っていて、借用証のファイルからの除外と図書の整理に一日中落付けない。

窓口の仕事ではないが図書の借用証の整理は一日とてためておけない仕事で、常に借用期限に注意して督促状を発送するのも気の重い仕事である。又月末には開架図書の整理と不在架図書の調査も大変な作業の一つ、閲覧貸付統計の作成も図書館の予算要求の資料の一つとなる重要な仕事である。整理過程を終って来た新着図書と、そのカードの整理や開架室への排架、或は特別閲覧者に対する手続きや応接等々、ちょっと数えただけでも仕事の種類の多い係ではある。

あ と が き

3月に卒業生をおくりだし、一沫の淋しさを味った私達は新学期とともに、ま新しい学生証を片手に図書館を利用する新入生に喜びを覚える。これからの4年間、学生々活において図書館が学習の主要な場として利用されることをねがってやまない。

本号より下記の13名が編集を担当することに

なった。図書館と図書館利用者が密着した館報とするために、皆さんの声をおきかせ下さい。

伊藤 祐昭(委員長) 古原 雅夫(医学部)
広庭 基介(本館) 今井 敏子(理学部)
内藤 昭子(〃) 金井 孝(経済学部)
尾崎富美枝(〃) 丸山みゆき(数理研)
上田 展世(〃) 村田 修身(教育学部)
山本 重雄(〃) 須原 英夫(法学部)
吉井 良之(〃)